

あかあま

わが町、わが店、この道一筋。出逢いとコミュニケーション あかい新聞店ホームページ <http://www.akai-shinbunten.net> <発行所>あかい新聞店 武豊店/知多郡武豊町字金下37番地 ☎<0569>72-0356 常滑店/常滑市市場町4丁目167番地 ☎<0569>35-2861

常滑・青海 瑞雲殿
誠意と真心であんしんのかけはし

CSK葬祭

☎ 0120-33-5909
TEL 0569-35-2785
FAX 0569-35-2296

24時間体制完備

葬儀専用ホール

企画・制作：株式会社新聞ビル

Nobuo Murakami



元気のでてくる“ことばたち” 122

村上信夫 (アナウンサー)

NTTに就職した。「満員電車、くだらない会議：一つ一つに感動した。興奮した。視野が広がった」

NTT川崎支店に新人として配属され、そこで出会いがあった。

婚する。

新婚旅行先で、自分一人だけタツタカ先に行く双雲さんを目の当たりにして、玲子さんは離婚しようかと思つたという。「ティッシュペーパーを取つて」と言つたら、箱ごと投げつけられ、シヨックで泣いたという。まさに二人の結婚は異文化の出会い

■村上信夫プロフィール
NHKチーフアナウンサー
1953年、京都生まれ。明治学院大学卒業後、1977年、NHK入局。富山、山口、名古屋、東京、大阪に勤務。4月からは、新番組「ラジオビタミン」担当。(ラジオ第一8:30~11:50) これまで、『おはよう日本』『ニュース7』『育児カレンダー』などを担当。教育や育児に関する問題に関心を持ち続け、横浜市で父親たちの社会活動グループ『おやじの腕まくり』を結成。趣味は、将棋。著書に『元気のでてくることばたち!』(近代文芸社) 『おやじの腕まくり』(JULA出版局) 『いのちの対話(共著)』(集英社) 『いのちとユーモア(共著)』(集英社)

行き当たりバツチリ 〜書道家 武田双雲さん〜

新聞や雑誌の題字、映画やテレビドラマのタイトル文字、様々な分野のアーティストとのライブパフォーマンス：いろんなところに武田双雲さんが揮ごうする文字が躍っている。来年の大河ドラマ『天地人』の題字も手がけた。義と愛を重んじた戦国時代の武将、直江兼続が主人公だ。「傷つきやすい人間が志を持って飛び跳ねるイメージ、弱そうだが元気のあふれる字に仕上がった」と双雲さん自身も満悦だ。

武田双雲が出来るまで (前編)

双雲さんは33歳。格闘家のようなガツチリとした体格をしている。身長も1メートル90センチはある。胸板も厚い。一九七五年、熊本市生まれ。3人兄弟の長男である。三男も書道家・双龍として活躍している。9歳下の三男をおんぶして世話をしていた。だから子守りは得意なのだ。

3歳から書道家の母(双葉)に手ほどきを受けていたが、書道家になるつもりはなかった。サラリーマンに憧れていた。東京理科大学を卒業して、

伴侶になる玲子さんとの出会いだ。玲子さんに言わせると「うるさいし、下品だし、まるで野獣のようだから」キライなタイプだった。一方の双雲さんは、「ほとんど話さず物静かなのに、自分の意思は通す」と分析していた。互いに、いままで出会ったことのない珍しいタイプだった。だからこそ、惹かれあつたのだろう。

双雲さんは二〇〇〇年の夏、熊本に帰省して、母の書を見て、改めて「うまい!」と感心した。母の字をインターネットで紹介した。先輩の名刺を「書」で作つたら好評だった。新たな世界が広がろうな予感がした。

NTTを辞め、書道パフォーマンスのイベントを企画する。玲子さんは、週末の休み、その手伝いをしてくれた。二〇〇三年9月、二人は結

だった。

武田双雲が出来るまで (後編)

新婚生活をスタートさせたものの、書道家として軌道に乗るまで時間がかかった。「書教えます」のチラシを



俳画/イネ・セイミ

「電車ですを踏まれてイライラしたとき、何でイライラしてるのかな? 料理をおいしいと思つた時も、何でおいしいと思つてるのかな?」というふうに、もう一人の自分が双雲さんの言動や行動を面白がって見つめている。日常の積み重ねを面白く見ているのだ。家庭生活もそのように見えている。

双雲さんは「結婚とは、ぜいたくな修業だ」と言う。「違うから楽しい」のだ。半円が重なり合う「〇」の書がある。「武田双雲」は、双雲+玲子で出来上がっていると自認している。玲

一〇〇〇枚作つても、電話一本も来なかつた。しかし双雲さんは決して悲観的にならなかつた。お金が減つていくこと自体が面白いと思える性格だった。彼の信条は「行き当たりバツチリ」なのだ。

地元の藤沢駅前の路上で、書道パフォーマンスを展開した。「あなたの言葉書きます」と銘打つて、その人と話したことをもとに、その人を表す言葉を書く。

■イネ・セイミプロフィール

フルート奏者として活躍中。俳画家。絵画を幼少より日展画家の(故)川村行雄氏に師事。俳画を華道彩生会家元(故)村松一平氏に師事。俳画の描法をもとに、少女、猫等を独自のやさしいタッチで描いている。個展多数。

俳画教室開講中

ところ 常滑屋
とき 月一回 第二金曜日 午後一時〜
会費 一回 二五〇〇円(四ヶ月分前納制)
問合せ ☎〇五六三(三三)〇五八三

村上信夫
「言えなかつた
ありがとう。」

好評発売中

堤江実のポエム
コンサートを
CDでお届けします。

言葉に癒される
CD 堤江実のポエムガーデン
やさしい風が吹いています。
水々の梢は光っています。
あなたの心がやすらぎで満たされま
すように。
あなたの心に喜びがあふれますように。

詩と朗読 堤江実
フルート イネ・セイミ
ピアノ はちまん正人
構成 佐藤よりこ
Disc1. 光のように
Disc2. 花のように
2003年10月22日発売
CD 2枚組3,150円(税込)

子さんは愛ある批判者だ。出来上がった書を見て、「全然ダメ」「興味ナイ」とストレートな物言いをする。「褒めてくれるのは1割程度だけど、大体、評価は当たっているんだよね」と双雲さんは苦笑する。

双雲さんは、二人の子の父親である。長男が3歳3ヶ月、長女が7ヶ月。二人が生まれるとき、いずれも立ち会った。長男の時は9時間に及んだ。「これまでの人生で一番頑張った」と言う。出産に立ち会い、「愛がほとばしった」。産声に感動して号泣した。かなりの感激屋である。誕生の翌日「愛」の一字を揮ごうとした。愛の上にもらめら燃える炎のようなほとばしりが描かれている。

子どもたちとは、一緒になつて徹底的に遊ぶ。「無二の親友、気の合う仲間って感じ」だそう。夫人に言わせると、もう一人、大きな子どもがいるようだ。

慈愛の人・良寛(42)

杉本武之

良寛と医師・桑原祐雪

良寛は69歳のとき、長い間住んでいた国上山を去って、人家の立ち並ぶ島崎村の木村家の新小屋に移ります。良寛の世話をしていた弟子の遍澄が地藏堂村の願王閣という寺の住職になり、老齢の師をひとり山中の草庵に残しておくことはできないと考え、自分の出身地である島崎村の木村元右衛門に良寛の世話を頼んだのです。国上の自然から離れたくなかった良寛も、ついに意を決して山を下りることにしました。

それまでも、多くの人が良寛をもっと人里に近い所に移そうと考えていました。しかし、良寛は「どこにも行く気はない」とか「古い庵ならいいが、わざわざ新しく造るのなら行かない」とか言って、申し出をすべて断っていました。どうして良寛は、木村家から行っていいという気にな

慣れ親しんだ国上山の周辺

慣れ親しんだ国上山の周辺には、懇意にしていた裕福な人々がたくさんいました。頼めば喜んで迎え入れてくれたでしょう。しかし、良寛は島崎村の木村家に寄寓することに決めました。木村元右衛門利蔵は、前々から良寛を崇拜して、五合庵や乙子神社草庵にも足繁く通っていました。良寛も木村利蔵の人柄をよく知っており、彼の家の空いている小屋なら住んでもいいと思つたのでしよう。

水神相傳

北越東原其先賢人中移於嶋崎其後川之上帝家馬家世業醫術兼為良寛一後農運鎮馬於岸柳心憐予水神偶土而曝背候其過無人解自纏將膏入於水馬蹴而疾走水神力不能支被如膏入於殿馬嘶而止家前住見

良寛筆「水神相傳」(冒頭)

ちがいありません。今から桑原祐雪について書きます。兼行法師は『徒然草』の中で「よき友」について次のように書いています。「よき友、三つあり。一つには物くるる友、二つには医

師。三つには知恵ある友

初めてこの部分を読んだ時、大学生だった私は、欲を捨て、簡素に生きよと説いた兼行法師が「物をくれる友」が最高だと書いた理由がよく分かりませんでした。兼好法師で俗物ではないかな

理想の友だと思えていたよ

を理想の友だと思えていたよ。そして、この三つの条件をすべて備えた友人の一人が桑原祐雪でした。加藤藤一著「良寛事典」にはこう書かれています。〈桑原祐雪(くわばら・ゆうせつ) 生没不明。新潟県三島郡和島村島崎の医師。良寛が最晩年に身を寄せた木村家のすぐ斜め向かいに家があり、荻川(現・島崎川)に面していた。荻川には河童(水神)が住んでいたが、ある時、陸に上がって馬に引きずられ危うく命を落とそうになつたのを助けてもらった。河童はそのお礼に止血剤を持ってきた。それ以後桑原家は「河童医者」と言われ大繁盛したという。良寛がその由来を記した「水神相傳」の作品が残っている。木村家にすぐ近いこともあり、良寛はしばしば桑原家を訪れ、時には診察も受けたようである。同家には有名な「指月楼」の作品も伝え

が大繁盛した。これは当主(祐雪)より5代前の出来事である

祐雪宛の良寛の手紙を3通書で書いた「水神相傳」の内容を簡単に紹介します。(写真参照)「北越の桑原氏の祖先は加賀の人である。そんなに遠くない昔、島崎の荻川の側に移ってきた。代々医業に携わってきたが、農業もしていた。ある日、当時の主人が農作業から戻ってきて、馬を川岸の柳の木に繋いでおいた。真昼に、河童(水神)がその馬を川の中に引き入れようとした。馬が暴れて走りだし、河童の子は馬小屋まで引

次の手紙は、「手足」なる人物がやってくる

良寛はいろいろな人から多くの物を贈られました。炭を贈つていたのは祐雪だけでした。質のいい炭のお陰で、良寛は冬の寒さをそれほど凌ぐことができたでしょう。祐雪は、ひよつとすると、良寛と同じ日か、その前日に死んだのではないかと思われ

「杉本武之」プロフィール

1939年 碧南市に生まれる。京都大学文学部卒業。翻訳業を経て、小学校教師になるために愛知教育大学に入学。25年間、西尾市の小中学校に勤務。定年退職後、名古屋大学教育学部の大専攻で学ぶ。趣味は読書と競馬。



杉本武之(右)と良寛の霊前に供えた花

この指とまれ (153) 氏原朝信

じゃんけんをしていつも負ける子がいます。いつも負ける子は、いつも同じもの(グー・チョキ・パーの1つ)を出すパターンだからです。いつも勝つ子は相手は何を出すかというくせを知りぬいているからです。その自分のくせを振り返る余裕があれば、その子は勝つことができるのです。そうすると、相手も次の手を考えてくるようになります。

このように、相手がいろいろと考え出すようになるお互いの心の内をさぐり合う心理戦になります。この心理戦になるのも、中学年(三・四年生)くらいからでしょう。そのかけ橋のようなことをするのが、予想のための占いです。じゃんけんをする前に、次に何を出したら勝つのかを占うことです。その一つの方法として、片方の手の甲を自分の目の前に出して、手の甲の中央に人差し指の甲を置いて上向きに力を加えます。手の甲にできるしわの数や形を見てグー、チョキ、パーの何を出すかを決めます。

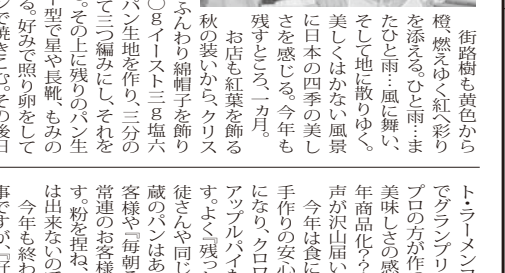


①

もう一つの方法は、写真①のように自分の前で両手を交差させながら、右手の手のひらと左手の手のひらとをくっつけ、両手の指をからめます。

次に、からめた両手ははずれないように下から内側の方(自分の方)に回しなから外の方へ押し出すようにします。(写真②)

最後に、写真③のように小指の方から目に近づけて親指の隙間からの光の形を見るのです。光の形が四角に見えるときグーを、三角に見えるときチョキを、丸く見えるときパーを、といった具合に占って出します。このように、心を落ち着かせて、相手は何を出すのかを考える作戦タイムともなるのです。来年を占って、「じゃんけんばん」…。いい年でありませうように!



③

Oeuf Oeuf (ウフウフ)

仏語で卵という意味です。

街路樹も黄色から橙燃えゆく紅・彩りを添え、風に舞う。そして地に散りゆく。美しくはかない風景に日本の四季美しさを感じる。今年も残すところ、一月。お店も紅葉を飾る秋の装いからクリスマスを見立てる。強力クリスマス・リース・三日月・水・一七〇〇をよこぎね、ハ生地を作り、三分の二をよみ状にし、三本に切つて三編みにし、それを輪にしてハのリースを作る。その上に残りのハ生地を平らに伸ばし、クッキー型で星や長靴、もみ木を抜き、リースに直接のせる。好みで照り卵をして一八〇度三分ほどオーブで焼きむ。その後、除で乾燥。赤いボンボインセテアの造花を飾ればパンのクリスマスリースの出来上がり。十一月を楽しむ空間に模様替えいかがでしょうか。

年々、年を重ねるうちに時間が過ぎるのがとても早く感じます。今年の大イベント「しよゆサミツ」

料理研究家 長澤晶子

- 常滑市民文化会館
- 妖術の会 クリスマスコンサート
- 横須賀高等学校 合唱大会
- 常滑市立図書館
- 常滑市立図書館
- 常滑市立図書館
- 常滑市立図書館
- 常滑市立図書館
- 常滑市立図書館
- 常滑市立図書館

- 袋 申込み期限 十日水まで
- 袋 申込み期限 十日水まで
- 袋 申込み期限 十日水まで
- 袋 申込み期限 十日水まで
- 袋 申込み期限 十日水まで
- 袋 申込み期限 十日水まで
- 袋 申込み期限 十日水まで
- 袋 申込み期限 十日水まで
- 袋 申込み期限 十日水まで
- 袋 申込み期限 十日水まで

大阪屋葬祭

誠意をこめて安心のお手伝い
年中無休・24時間体制

常滑ホール 鬼崎ホール 阿久比ホール

TEL:0569-35-4949 (代表)
FAX 35-4911

Santa Mama's Cafe

「はちまん正人」
ピアノクリスマスコンサート
〜クリスタルクリスマス〜

2008年 12月20日(日)

Santa Mama's Cafe
サンタママズ・カフェ
高野町駅前3/3-37-1
開演 午後1:00・3:30(開場 12:45)
料金 午後5:30~8:00(開場 5:15)
¥3,000(軽食・ドリンク付き) 各定員30名

【お問合せ】 サンタママズ・カフェ TEL.0569-73-6180

下垣真希

クリスマス・ディナー・コンサート
〜世界的二胡奏者、ジャズ・シン・ファンとともに〜

2008.12.20(日)

18:00~21:00(17:30受付開始)
全日空グランコート名古屋7F グランコート
Tel.052-683-4111(Ｒ・名鉄・地下鉄の金山総合から徒歩1分)

料金(25,000円税別)プレゼント
コースディナー、フリードリンク、プレゼント

出演 下垣真希 幸 買 蘭芳/二胡 北川真児/ピアノ

【お問合せ】 クレッシュド企画 TEL.052-938-7011 info@maki-opera.com

愛知県立大学名誉教授

山田正敏

『バリ島行ったり来たり』(12)



今まで、いく度となく書き記してきたWHO調査で、「世界中で一番精神病の少ない地域・バリ島」と評価された、その「典型的な地域」として、私が着目し、調査対象として選んだのは、この連載の冒頭で(07・9月号)、『バリ島との縁』と題して、バリ島の紹介をした際に触れた「私が滞在する山麓に近い農村」である。

その山麓とは(バリ島地図参照)、バリ島中西部の「バトゥカウ山」(二二七一米の高峰の山麓である。その中腹には、バリ・ヒンズー教の六大寺院の一つに数えられ、全島民の厚い信仰の対象になっている「ルフル・バトカウ寺院」がある。この寺院は、かつてバリ島にあった八つの王国(現在は県)の一つ、タバナン王国の国寺として建立されたもので、同じ中腹にある、現在島民の避暑地として親しまれている、プラタン湖など三つの湖の神々を祀る社もある。

この参道の入口の村が、10月号で紹介したバリ島「古来の伝統的農山村」ワンガヤ村(標高七〇〇米余り)である。

この村に至る坂道の街道筋に沿って、両脇に長く広がる標高四〇〇米余りの農村が、同じタバナン県に属する農村であり、私がこの10年来『バリ島 行ったり来たり』しているバリ島の滞在地である。

◆ 《なぜ、このような農山村が、バリ島らしい地域なのか》

この間、バリ島に関する研究者の著作を、何冊か読ませて頂いた。その数倍にもよる観光案内書にも目を通した。

その中には理解を超える書物も多々あったが、私がWHO調査の「精神病が世界中で一番少ない地域バリ島」の、典型的な地域を絞り込む「私の仮説」を、一読で満足させてくれる文章に出会った。

その文章は「世界中から観光客が押し寄せようとも、バリ島の主要産業は農業だ。とくに主食の米の栽培技術は、すぐれた灌漑システムにより近接諸国随一と評価されている。」と、単刀直入に述べた一文です。

バリ島の産業構造も調べてみた。バリの人々の生活は、この一文のように、もっぱら農業を中心に成り立っている。

島のや、北部中央を東西に走る二・三千米にも及ぶ、火山帯の麓の湧き水を利用した水田稲作のほか、湧き水があまり利用できない標高五〇〇米から六〇〇米以上の高地では、二・三千米の山々にかゝる雲からの雨水の恵みを受けて、水田の間作としての畑作、さらには当時へビースモーカーであった私が、

《はじめのバリ島》(一月号参照)で紹介した、空港のポーター

達のあの「えもいわれぬ、今まで嗅いだこともない甘ったるいタバコの香り」に魅せられた、その正体「丁子(グロブ)」やヴァニラ、コーヒ、サラックなどの換金作物の栽培などが見られる。

また多くの農家では、バリ原産の牛、数は少ないが水牛、それに豚アヒル、ガチョウの飼育がおこなわれている。ほとんどの農家で飼われているのが鶏。牛や水牛はもっぱら耕作用に、それ以外は食用に供されている。この中で、農家の家々の庭で飼われている鶏の毎朝の鳴き声は、「時」を告げ、私などには、子供時代の「田舎の原風景を蘇らせてくれる。田舎の朝のガスガしさも……」。

グループなどの栽培や、アヒルなどの飼育は、一部にそれを専門にしている人もいるが、それ以外は、もっぱら「農家の副業」として行われている。

最近の資料によれば、「バリ島の人口の80%が農業従事者といわれ、農民の平均所得水準は国内トップクラス」と記述されているものもある。(実業之日本社『バリ・ポロブドール』04刊)

この記述には、俄かには賛同できなかつたが、バリ島での私の見聞・体験を思い起してみると、徐々に急速に理解できてくるのです。

それは、バリの人々との「暮し方の微妙な相違にあると思われま

す、副業」というものを、必ずと

いついて、ほど持ち合わせているということ。教師も公務員も、ホテルマンも、僧侶も神職、警官も……。

私が啞然としたのは、プリアタン村で世話になった車の運転手は、高校の英語教師であり、あのバリ島の六大名刹の一つ・バトゥカウカウ寺院の僧侶であると紹介された時である。また、彼らは全て農民でもある。

これらの収入を合算すれば、所得水準はトップクラス——ということにもなるだろう。(外国資本の観光業者は別格)

いずれにしろ、バリ島民の過半数を超える住民は農業従事者・農民である。

◆ もともと、農山漁村と都市は、人類が社会を形成して以来の二つの定住地の形態であり、それぞれ農林漁業と商工業を主要産業として、地域的、社会的に分業をおこなってきたのです。「神は農村をつくり、人類は都市を創造した」といわれるように、都市は農山漁村から、市民の生活物資としての農林水産物をはじめ、工業原料や燃料をうるることによって、さらには住民を労働力として移入することによって発展した、人工的につくりだされた定住地です。

一方、農山漁村は自然の恵みへの、人々の「むらがり(群がり)」として、発生した自然に形式された定住地です。人類の歴史は、この両者の対立と相互依存の歴史といってもよいでしょう。

バリ島も例外ではありません。むしろバリ島は人類が形成してきた農山漁村と都市という二つの定住地の形成の歴史の典型といっても過言ではないでしょう。

農村をつくった「神」とは、「自然の恵み」のことであり、その自然(神)の恵みに「ムラがり」——村々をつくって、定住をはじめた

のです。日本語の「村」という言葉の語源はこゝにあり、「市」の語源は、自然の恵みを売り買いする「市場」に由来しているといえます。私の滞在する村のバトゥカウ街道の一つ下がった村は、農村でありながら毎日朝市の建つ、私の村からすれば「都会(市)」です。

◆ どの書物を開いても、「バリ島中西部タバナン県には、緩やかな斜面に優美な曲線を描くライステラス(棚田)が延々と広がる。ここはバリ最大の稲作地帯だ……」と記されている。

一九九〇代には、よく日本の

TV局が、バリ島観光の番組を多く放映し、絵になるタバナン県の棚田もバリの風景として毎回登場していたものゝ、観光客の姿は、あまり見たことがない。時折、二三人の西洋人がサイクリングを楽しむ姿を見るくらいのものである。

この地域は、バリ・ヒンズー教信仰による、神々が住むといわれる山に連なる、豊かな自然に恵まれ、観光化の喧騒もなく、営々と暮らしに勤しむ農民の暮しがみられる「バリらしいバリの村」と、私が気に入った、調査対象というよりは、住みたくなる地域でした。



ほりお教授の 体験的源氏物語論(三)

源氏物語・その光と影

愛知淑徳大学教授

堀尾幸平



美しく哀しい文学

「源氏物語」が紫式部によって書かれてから千年紀。これを機に、わが国の最大の古典、大国民文学とも言える源氏物語を読み、親しみ自分たちのものにしていくことは、この上もない喜びであり楽しみである。

だが、その喜び、楽しみは、腹の底からこみ上げてくる底抜けに明るいものではない。結論的に言えば、さみしさ、哀しさを含んだ「人生」を学ぶことの「楽しさ」なのである。

私たちが生きていくには、さまざまにまな悲しさ、さみしさ等、喜怒哀楽の力タルシスを通して人生をより高きものにしていく所に重要な意味がある。

ものごとには楽しい光があれば、必ずその影の部分が存在する。「源氏物語」も華麗な光の部分に対して影、負の部分にあたる哀しさ、さみしさがあり、そこを避けて通ることはできない。「源氏物語」を端的に表現すれば「美しく哀しい文学」「光と影の物語」ということができる。

私たちが生きていくには、この影、負の部分にあたる多くの悲しさ、さみしさを克服していかなければならない。それは「源氏物語」が書かれた紫式部の時代も現代も少しも変わっていない。

私たちが、より幸せで質の高い人生にするために「源氏物語」を読み、登場人物や姫君たちの生き方を一緒に考え、悩み、理解して、それらの一つひとつを克服し、自分たちのものにしていくことが「源氏物語」を

読むことの大きな喜びであり意義である。

そういう意味で、「源氏物語」は人生と愛の最高の教科書であると共に反面教師の人生文学であると言える。

六条御息所

都六条に住む御息所(ミヤスドロコ)。御息所とは天皇の御子を生んだ女性のこと。ここでは今は亡き前東宮の御息所で、女の子(後の斎宮、秋好中宮)がいる。源氏より七歳ほど年上の愛人である。二人の出会いが物語に書かれていないが、とにかく若い源氏が恋しくてならない。

源氏への激しい独占欲から嫉妬の権化となって源氏に近づくと女性を次々に呪い殺していく。その最初の標的が源氏の別荘で急死した夕顔であった。

それから葵祭御禊の日、車争いで恨みを持った正妻・葵上。夕霧を生んだ直後、二十六歳で殺される。

また、ずっと後で、源氏の三番目の妻・女三の宮も柏木との密通があったとはいえ彼女の生霊によって入道にさせられた。

そして源氏最愛の紫上でさえ、四十三歳、「御法」で亡くなってしまふ。源氏が愛する姫君たちを次々に生霊、死霊で呪い殺してしまう御息所は、まったく恐ろしい女性で、源氏物語きつての悪女といえる。筆者は、若い頃、どうしても書いてあろうかとの疑問と共に、どうしても馴染むことはできなかつたが、長年読み重ねるにしたがって、それが理解できるよ

うになった。つまり愛することは命がけのもので、得体の知れないほど恐ろしく強いものである。人生には、さまざまな愛があるが、その本質は、この底知れぬ強さ、恐ろしさが存在することを知らされる。そういう御息所も最愛の娘が伊勢の斎宮になった時、娘に付いて伊勢まで下向していった。そして死に際には、源氏のあいまいな愛の態度を批判し、娘にだけは中途半端に手をつけないで欲しいと願い、その後見を遺託していく。(ずっと後で斎宮は、秋好中宮となる)。これも御息所の強い母性が出ているのである。

玉鬘

玉鬘(タマカズラ)は、夕顔の遺していった娘。三歳の時、母親が失踪亡くなったことから乳母夫妻に連れられて筑紫で育つ。美しく成長した玉鬘の噂を聞いて求婚する人々が次々に現われた。中でも太夫監という豪族に言い寄られて、逃げ、脱出して都に帰った。そして長谷寺参詣の折、昔の右近に逢って、源氏と出会った。まさに波瀾万丈の生涯である。

だが源氏は、実父・内大臣に内緒にしてこの美しい玉鬘の魅力に取り憑かれた。源氏は、悩み、愛し、惑い、苦しむ、求めつづける。やがてあきらめることを自分に納得させ、秋の夜、篝火の前で冷たい髪に触れながら玉鬘を抱きしめる「篝火」(二十七帖)の場面は、せつなく、美しく「ものあはれ」をしみじみと感じさせる圧巻といえる。そして源氏が玉鬘を養女にすると求婚者が次々に現わ

れる。だが玉鬘は意外にも髭黒大將と結ばれてしまふ。その後、三男二女を生み、夫と死別する。結婚前にいろいろあった源氏の四十賀を人に先んじて玉鬘自ら主催した(若菜上)のも彼女らしい。人柄がこの上なくよく、明るく素直で、誰からも愛されて前半生の波瀾に富んだ境遇とは対照的におだやかで落ちついた人生を送った。現代にもよく見られる日本の誠実な良妻賢母型の女性であった。

末摘花

スエツムハナ。一夜だけ契つただけの男(源氏)をただひたすら待ちつづける姫君。

父は常陸の宮であるが、早く亡くなつて屋敷も荒れ放題。生活も貧しく苦しいが、父の生前の昔を誇りに生きている。そんな姫君に愛想をつかして女房や侍女たちは次第に離れていく。

荒れ果てた屋敷で、あてにならない男をあてにして、ひたすら待ちつづける末摘花。

だが、男(源氏)は、ついに訪れた！女の家の前を偶然通りかかって、ふと思いついて訪れたのである。男と女の、偶然ともいえる再会であった。源氏は、たった一夜だけ契つた女のことなど、それまですっかり忘れていたのである。

このあてにならない男をひたすら待ちつづけたのは、痛ましく、あわれであるが、心を打たれる。源氏は、この純情な末摘花のこころに報いて、以後、こころを尽して丁寧に扱う。

この末摘花は、きわめて醜女である。鼻の先が象のようで、紅花に似て赤いことから付けられたあだ名である。そして源氏は若紫を相手にその容貌を何度みからかうのは痛々しく可哀そうである。

末摘花は、源氏物語きつての醜女であつて、古風で現実に対応できない不器用な姫君であるが、源氏は、彼

女の後半生を気長にこころをこめて、愛していく所に源氏の「色好み」の幅の広さと深さがある。人間にとつて、愛は、こころであつて、容貌は、それほど問題にならないのである。

朝顔

桃山式部御宮の姫君。朱雀帝の即位で、賀茂神社の「齋院」に選定された。源氏の長年にわたる熱い求愛をかたくなに拒み通した姫君である。源氏と六条御息所の苦しい噂を聞いてか、源氏からの懸想をいつそう避けた。

自分でも源氏に強く惹かれながらも心も体も固く閉じつづける。齋院引退後も、源氏からの執拗な求愛が来るが受けつけない。それが生涯つづく所は、あの空蟬に通じている。愛しながらも、それを生涯にわたつて拒絶する強さには心を打たれる。

源氏も拒絶されて、はじめて恋の苦しさを味わつたともいえる。晩年、永遠のマドンナ藤壺が亡くなった直後、源氏は、改めて朝顔に言い寄る。

見しをりのつゆ忘れぬ朝顔の花のさかりは過ぎやしぬらむ昔、お会いした頃の朝顔の花のように、すべては過ぎてしまったのでしようか。長い年月、積もり積もつた私のせつない思いが分かつて下さるでしょうか。頼みにしています。愛しています…。

源氏は、それからも朝顔を追い求め、紫上を嫉妬させ、恨み悲しませる。甘美な恋は、また切なく苦しいのである。

より美しい愛を求めて

私たち人生は、愛なくしては生きられない。さまざまな人生があるように、愛にもまた、さまざまな形がある。「源氏物語」には、このさまざまな



「源氏物語」一千年記念切手 日本郵便(平成20年)

愛が描かれているが、それは、そのまま現代にも通用する。

ああ、これは若い頃の私の恋だ。今も進行中の愛だ。友人の、姉妹の、あの人の恋だ、と思ひ当たるふしが多いにちがいない。千年たつても愛や恋や、人生は少しも変わっていないことに気づく。

この世には、美しい恋、道徳的な恋、気まぐれな愛、よこしまな愛と、さまざまに美しく、悲しく時には醜く、揺れ動いている。

だが作者・紫式部は、この恋こそ最も理想的、模範的であると、決めてくれている。どれがいいか、悪いか、すべて読者にゆだねられているのである。

「源氏物語」のさまざまな愛を読み、考え自分たちでより美しい質の高い愛をさがし求めなければならぬ。そういう意味で「源氏物語」は、理想、憧れ、幸せを探索する文学と言える。

さあ、「源氏物語」をテキストにして、千年紀の今、みんなで、私たちの自身の人生、愛について考え、語り合おうではありませんか。

(愛知淑徳大学文学部教授)

知多の動植物雑記(二四三)

原 穰

「うー寒ー」と思わず口にしてしまう今日この頃。暦を見れば七日は大雪...



夢と希望のハナミズキ&ユズ

半田市岩滑中町で、四月にハナミズキの花を撮らせて頂いた加藤家の実態は如何にと立寄れば、ハナミズキ...

さらに庭先にはランタナ、アゲラタム、オキザリス、ナタネ、エビネなど、お花お花で超うらやましい。一方わが家の庭も、去年は七、八個しかつかなかつたユズの実が、今年は何と...

ている木や、葉は落ちてしまっているが実のびっぴりついている木のある事をお尋ねすれば「実の多いのは白花の木で、ピンクの花の木には葉がついていて、紅葉がみられるんですよ」との事。加えて、「東の木はヤマボウシで、春に葉が出てから花が咲きますが、あたたかも葉の上に白いチョウチョが止まったようで、見ていても楽しいものです」など。

町の考古学

近代の考古学(百三四) 奥川 弘 成

遺跡

弥生時代 武豊町で発見された住居跡で最古といえる、ウスガイト遺跡にある一号住居跡です。それは、およそ六層四方ほどの竪穴にした建物と推定されます。建物を覆った土砂を取り除くと、平坦な床が現われ、細かな炭が大量に出土しました。

ここで、火を焚く生活の営みをしてきたようです。この住居跡が弥生時代だと分かったのは、出土した土器の見極めによります。人によって加工、製作した物は、時々特徴があります。縄文時代と弥生時代の道具で最も大きな違いがあるのは土器です。



1号住居の遺構と遺物

田市岩滑にある岩滑遺跡から出土した土器と同様な弥生時代中期の独特な器形と文様です。その土器は赤っぽい色をした素焼きでした。肌が滑らかで、壺や高杯、甕、鉢などが多く、ロクロのように回転する台の上で成形しています。それは、縄文土器にはない特徴であったことから弥生式土器と名づけられました。

特に壺は、米や雑穀などの穀物を貯めておく道具であったようで、縄文時代からの狩猟、採集生活から食料を生産するくらいへと変貌をとげた、時代を象徴する容器です。ウスガイト遺跡の一号住居跡でも壺形の土器片が多数出土しています。この土器片には、赤貝のように表面がギザギザの貝を用いた線を引き文様をつけています。それは、半田市の岩滑遺跡から出土した土器と同様な弥生時代中期の独特な器形と文様です。その土器は赤っぽい色をした素焼きでした。肌が滑らかで、壺や高杯、甕、鉢などが多く、ロクロのように回転する台の上で成形しています。それは、縄文土器にはない特徴であったことから弥生式土器と名づけられました。

先にあげた美浜町下高田遺跡では、弥生時代中期の壺にサヌカイトと呼ばれる石が納められていました。それは、奈良県当麻寺近くの二上山で産出するもので、矢じりや石製の包丁を作るのに便利な石です。石の包丁は鉄製などが普及していなかつた頃、稲穂など穀物の収穫に欠かせなかつた道具です。下高田遺跡では、石の包丁が採集されています。遺跡の周辺には深田と呼ばれる腰までつかれるほどの深い湿地がありました。こうした深田は海浜近くの所々で見られ、近年まで田船と呼ばれるソリのような船で稲を運んだといわれています。初期の稲作は、作業はしにくい水に困らない湿地を選んだのかも知れません。

ちょっとおしゃべりします 増田 光さん



「とびつきの可愛い女の子を紹介してあげると甘い言葉に誘われ出かけてくる素顔はシンプルでとびつき可愛かった。そして、ノリの良さもいい。そのとびつき可愛い女の子は増田光さんだ。大学を卒業後、岩滑に来た。現在、吉川千香子さんの工房で腕を磨く日々。千香子さんと工房で大胆な絵柄で遊び心を感じさせる、洗練された大人の陶磁器を手がける作家として、国内外で大活躍の方だ。月曜日から土曜日まで午前9時から午後7時まで千香子さんの工房で過ごす。そんな生活も腕を磨くために岩滑に来たのだから、全く苦しくない。むしろ、楽しんでいる千香子さんの無駄のない土の使い方に驚いたと話す。また、千香子さんは丁寧な仕事をする技術も教えてくれる。彼女のていくという。以前は背伸びをしてた作品づくりも、今は千香子さんの影響を受けながら、作りたいものを作る余裕も出てきた。千香子さんがそうであるように、いくつになってもおらかな気持ちで作業していきたい、話してくれた。このクマたちは、心身ともに癒しのひとときを過ごす。趣味は読書。休日は彼女がオアシスという、常滑市立図書館で過ごす。今は、インカ帝国とペルーの焼き物に興味があるという。ペルーの焼き物には何か通ずるものがあるという。陶芸大好き、吉川千香子さん大好き(赤井 伸衣)

若竹俳壇

芭蕉意にわが腰折の句を献ず 手を借りて相路踏み入る落葉坂 承らへば身丈も縮む木の葉髪 錦秋の谷を見下ろす露天風呂 祖父祖母を従え詣り七五三 狐花岸辺に続く紅い道 文化の日三角定規の芯に穴 潮風に負けず数増す泡立草 午後からは課外授業や蝶とり 想出を籠に摘み込み栗拾ひ 子を背負う猿の家族や山紅葉 草もみじ夫婦すずめが顔を出す 診察を待たされたいて金木犀 秋麗や日本最古の地蔵尊 鈴鴨の皆浮きあがる向かひ風 医師の言に従う余生蜆汁 クレヨンに朱色の減りや秋暮る 縁側の日差し嬉しき小春かな 生き方の本読みかえす夜長かな サーチャーJ心配も無く鷹渡る 夕陽に出て朝陽に帰りけり 吾亦紅水車の音符書いてゆれ 秋深む生駒の山の寺の鐘 影長のつるべ落しの日暮かな 運動会赤白玉が宙を舞う 秋雲や彼方を望む陶相像 少しずつ木の葉いろづく秋の暮

- 吉田ひろし 片岡 光子 青山 文代 谷川と志江 竹内すけ代 平賀たづ子 齊藤 浩美 馬場 利明 河瀬四子 中村 克己 林 京子 藤井 文月 桑山 撫子 富田 悦子 竹内三千彦 谷川 利子 曾我部和美 磯村美耶子 村井みさを やました悠 久田 篤 荒川 達雄 竹内ユミ子 村井 範子 渡辺 民子 柴山 庄山 中村 洋子

全国エコタウン大会 ゼロミッションフォーラム 2008 in あいち. 初日の12日は主催者の要知照の神田真知事があいづつされました。 発表日 2008年11月12日(水) 開催場所 中部国際空港(セントレア) 愛知県常滑市セントレア1丁目1番地

- 部 エコミーティング成果発表会 無料 第二部 コンサート 入会者に限り、Bstyle チケット 一般 五百円 3歳〜高校生 三百円 ○東大児童館 ▼クリスマス会七日(日午後一時半〜四時) ▼もつつき大会十三日(土午前四時半〜正午) ▼クリスマス会七日(日午後一時半〜四時) ▼お正月飾りを作る(二十五日)木 午後一時半〜四時 ○長尾児童館 ▼クリスマス会七日(日午後一時半〜四時) ▼もつつき大会(二十一日)日午後一時半〜四時 ○作て遊ぼう(二十六日)金午後一時半〜四時 ○半田町の科学館 ▼Xmasの星空&Xmasソング(キリストが誕生した時に輝いたといわれるベツレヘムの星の話と素敵なクリスマスソングを聴きなごらなす)クリスマスソングの満天の星空や幻想的なイルミネーション、ゆめホテルを染しむ(二十日)土午後六時半〜同七時半 定員二百四十名小学生以上 参加費 大人三百円 子ども二百円 ▼冬の観望会 Xmasプレゼントは宝石の星!二十日(土)午後七時〜同八時半 科学館前広場に天星すばる 二重星 星雲星団を天体望遠鏡にて観察 無料(雨天時は中止) ○半田市青木記念武道館 ▼子育て支援事業 レッスン・トライ 1、2、3(二回) ▲三四年杯少年少女年別柔道大会(二十日)火 参加費 二百円 ▲半田市ジュニア柔道大会(二十七日)土

